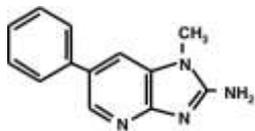
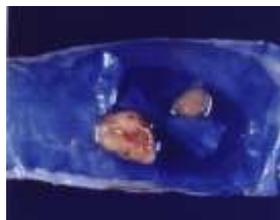


研究所の紹介：病院と連携しTRを目指す体制

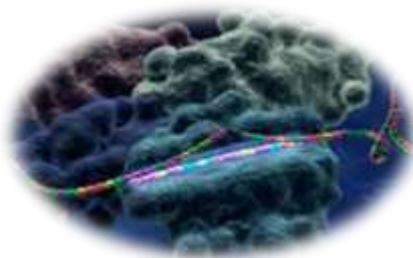
基礎研究担当部門

TR担当部門

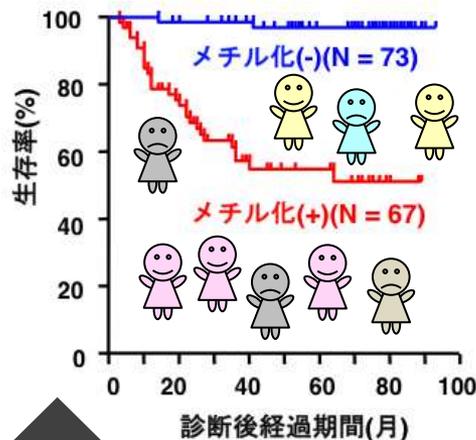
発がん機構
研究グループ



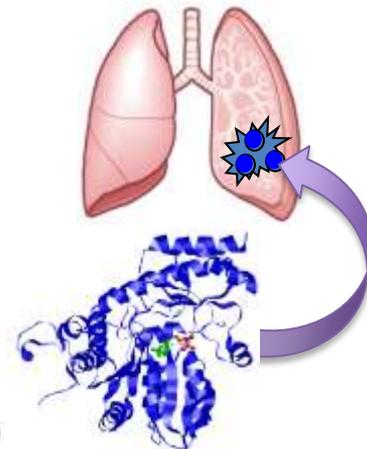
分子標的
研究グループ



分子診断・
個別化医療
開発グループ



治療
開発グループ



研究所

病院



バイオバンク

コアファシリティ

診療部門

研究所の紹介：多様な人材、期待される将来、豊富な論文

❖リサーチレジデントの出身学部（過去5年間）

採用年度	医学	歯学	理学	薬学	農学	その他	計
2006採用数	51	3	4	7	5	15	85
2007採用数	54	2	5	8	8	16	93
2008採用数	38	4	9	10	9	22	92
2009採用数	30	2	7	11	9	22	81
2010採用数	33	0	4	8	7	24	76

❖卒業生の進路（第1・2期生=全495名）

大学

教授	30
准教授	37
講師	29
助手	40
その他	21

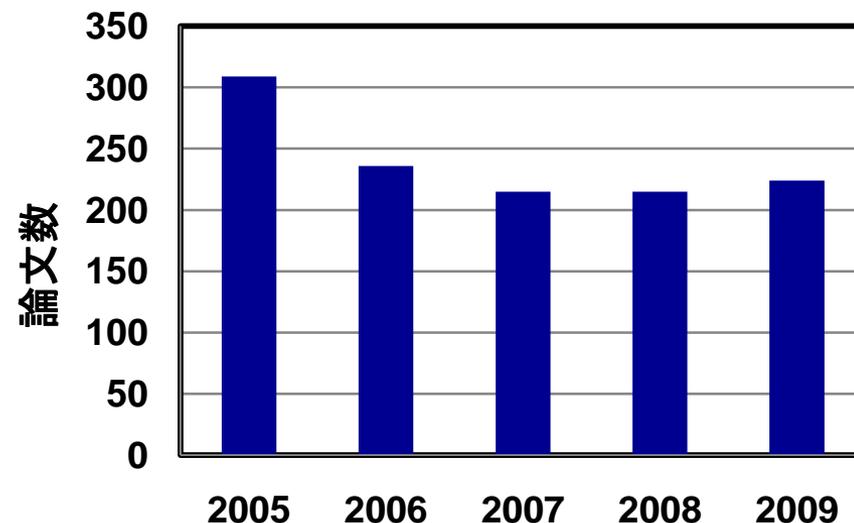
病院

院長	7
副院長	6
医長	19
医師	59

研究所

所長	3
部長	20
室長	18
主任研究員	5
その他	33

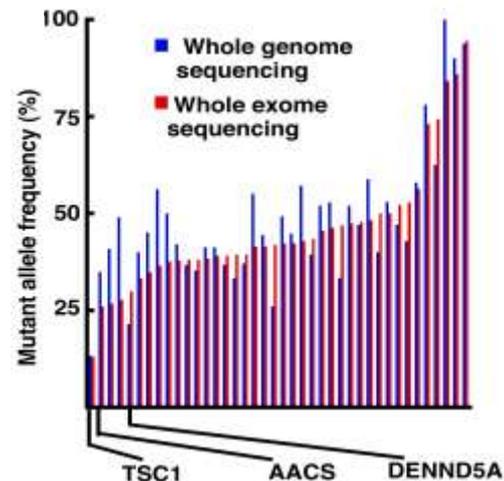
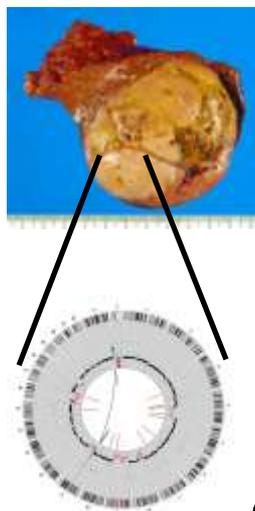
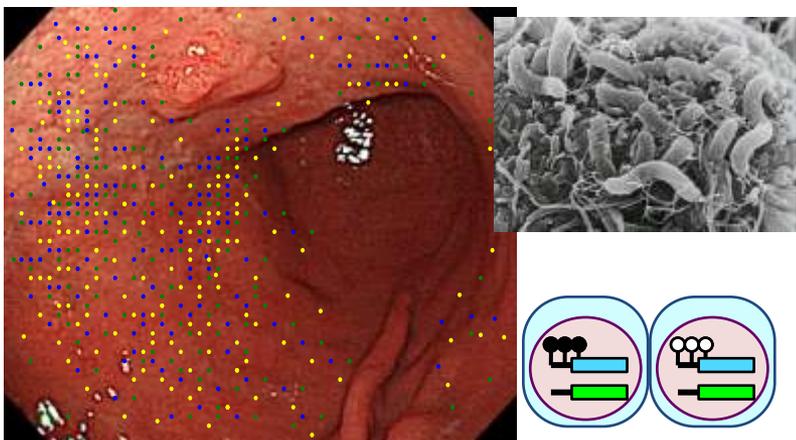
❖論文発表数（独法化まで）



研究所の紹介: 国際的に知られる研究成果

ピロリ菌感染によるDNAメチル化の誘発

HCV陽性肝がん世界初の全ゲノム解析



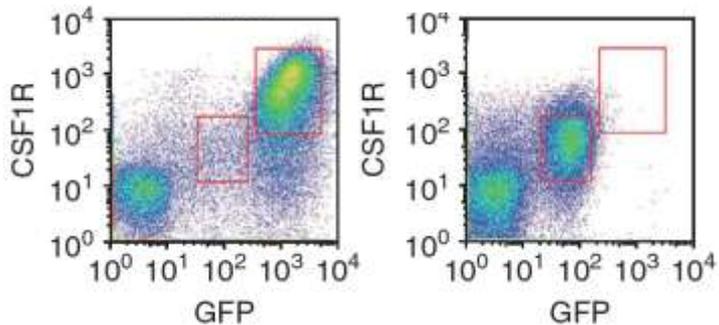
(Maekita, Clin Cancer Res, 2006; Niwa, Cancer Res, 2010)

(Totoki, Nature Genetics, 2011)

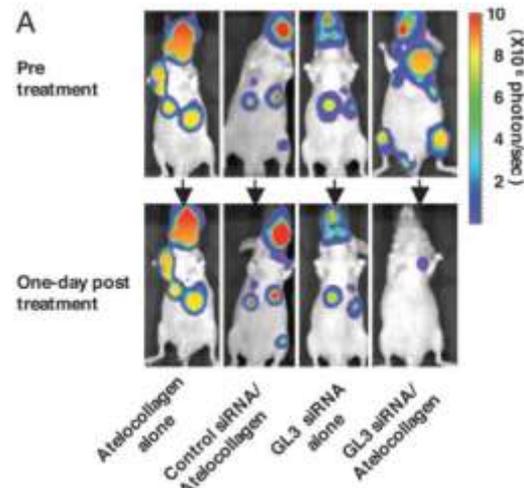
がん幹細胞を標的とした白血病治療

アテロコラーゲンによる分子デリバリー

白血病幹細胞 そのまま 白血病幹細胞を 攻撃 幹細胞 正常 白血病 攻撃



(Aikawa, Nature Medicine, 2010)



(Takeshita, PNAS, 2005)

研究所の紹介: 国立がん研究センター研究所ならではの チャンス

病院との連携



- ◆ 臓器担当研究員制度
- ◆ 合同カンファレンス
- ◆ バイオバンク
- ◆ コアファシリティ

国際的活躍の場



- ◆ 国際がんゲノムコンソーシアム
- ◆ 国際ヒトエピゲノムコンソーシアム
- ◆ 各種国際学会での発表機会
米国癌学会
Gordon conference
高松宮妃癌研究基金国際シンポジウム
など

様々な専門家



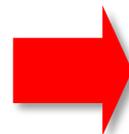
患者さんからの信頼と専門医の叡智に基づく未来への投資： バイオバンク整備および全初診患者からの研究採血

がん組織のバイオリソースバンクのさらなる拡充

病理診断業務



バイオバンク



病理専門医による採取

保管試料検索・
カタログデータベース

試料ID	患者ID	性別	年齢	病期	採取部位	採取日時	検体種別	検体量	検体状態
1000001	20000101	男性	65	IV	肺	2000/01/01	癌組織	10g	凍結
1000002	20000102	女性	58	III	大腸	2000/01/02	癌組織	5g	凍結
1000003	20000103	男性	72	V	膵臓	2000/01/03	癌組織	8g	凍結
1000004	20000104	女性	61	II	乳	2000/01/04	癌組織	12g	凍結
1000005	20000105	男性	68	III	肝臓	2000/01/05	癌組織	6g	凍結
1000006	20000106	女性	55	IV	子宮	2000/01/06	癌組織	9g	凍結
1000007	20000107	男性	70	I	腎臓	2000/01/07	癌組織	7g	凍結
1000008	20000108	女性	63	III	胃	2000/01/08	癌組織	11g	凍結
1000009	20000109	男性	60	IV	膵臓	2000/01/09	癌組織	8g	凍結
1000010	20000110	女性	57	II	肺	2000/01/10	癌組織	10g	凍結
1000011	20000111	男性	66	III	大腸	2000/01/11	癌組織	6g	凍結
1000012	20000112	女性	62	IV	膵臓	2000/01/12	癌組織	9g	凍結
1000013	20000113	男性	69	I	肝臓	2000/01/13	癌組織	7g	凍結
1000014	20000114	女性	59	III	乳	2000/01/14	癌組織	11g	凍結
1000015	20000115	男性	71	IV	膵臓	2000/01/15	癌組織	8g	凍結
1000016	20000116	女性	64	II	胃	2000/01/16	癌組織	10g	凍結
1000017	20000117	男性	67	III	大腸	2000/01/17	癌組織	6g	凍結
1000018	20000118	女性	56	IV	膵臓	2000/01/18	癌組織	9g	凍結
1000019	20000119	男性	73	I	肝臓	2000/01/19	癌組織	7g	凍結
1000020	20000120	女性	60	III	乳	2000/01/20	癌組織	11g	凍結



保安・ 安全システム

採血のバイオリソースバンクの新たな立ち上げ

連携大学院により:

1. システム化された学位の習得が可能になる

従来は、

- 大学教授との研究所分野長との個人的つながりによる大学院生の受け入れが主体。
- 国立がん研究センターで専門医→学位というコースはなかった。
- 病院出身のレジデントが診療経験に根ざした基礎研究を行い、優れた論文を書いても、学位の取得に大きな手間がかかった。

2. 基礎研究の機会を若手医師に柔軟に提供できる

従来は、

基礎研究に非常に強い意欲がないと、研究所には病院のレジデントが来なかった。

今後は、

ともかく基礎研究に触れることで、学術的な思考を身につけ、画期的な診断・治療法の開発を自ら実施することができるようになる。